―特別寄稿―

子ども時代の『おとうと』

松本春野
（題字／画）

『おとうと』の脚本を読んだとき、まず目の前に広がったのは、優しい姉とやんちゃな弟の笑いに溢れた子ども時代でした。おかっぱ頭の吟子が鉄郎へ向ける温かい眼差しや、鉄郎の天真爛漫な笑顔、いたずらの数々……。大人になった吟子と鉄郎の一挙一動に、彼らの子ども時代の面影がぴたりとついて回ります。ポスターに描いたのは、私の心に浮かんだ、そんな二人の姿でした。

題字は、吟子が「おとうと」と書いたらどんな字だっただろう、と想像を巡らせ、生真面目さの中に柔らかさのにじむ字だったのでは、と吟子になったつもりで筆をとりました。

絵を描くときは、自分の伝えたいものがどうしたら見る人に届くかを粘り強く探るようにしています。それは映画作りにおいてまったく妥協しない山田監督から学んだことでした。

奇をてらうようなことはせず、あたりまえの風景を丁寧に、丁寧に描く監督の映画は、観ているうちに、登場人物は身近な人となり、照明は本当の光となり、音響は日常の中の音となります。そして次第に、目の前に広がる世界が映画である事を忘れてしまいます。監督の映画を観たり、撮影現場へ足を運んだりするうちに、誰もが知っていることで人を感動させることは、見たこともない新しいことで人の心を掴むより、はるかに難しいことかもしれない、と考えるようになりました。

『おとうと』は、面倒なこと、非効率的なものを切り捨てていくなかでは生まれ得なかった美しい映画です。そこからは「誰もが人間らしく生きられる世の中に」という、山田監督の一貫したメッセージが伝わってきます。私も、幼い吟子と鉄郎の笑顔に、監督と同じ思いを込めました。

山田監督の考える人間本来の優しさや、可笑しさ哀しさが、この凸凹な家族を通して、世界中に広がっていくことを心から願っています。

まつもと はるの

一九八四年生まれ、東京都出身。多摩美術大学油画科卒業。雑誌のイラストや本の装幀画などで活躍。本作『おとうと』の予告ポスターを手がけ、その幼い姉弟の物語を描いた、絵本デビュー作となる「絵本 おとうと」（新日本出版社）を二〇〇九年十二月に刊行。

www.harunomatsumoto.com

※『おとうと』予告ポスター

「絵本 おとうと」
発売中
文・絵 松本春野
監 修 山田洋次
定 価 一二六〇円（税込）
出版社 新日本出版社